

# 市民のひろば

魅力あふれるいわきの創生  
～いわきの芸術・文化・スポーツ～

今月号は、演劇などの舞台鑑賞や、イベントの企画・実施など、幅広い活動を行っている「いわきおやこ劇場」運営委員長の飯塚智美さんに、インタビューした内容をお伝えします。

## レポート 242



飯塚智美さん (いわきおやこ劇場運営委員長)

Q いわきおやこ劇場とはどのような団体ですか。

子どもに夢を与え、たくましい心や豊かな創造性を育てることを目的に設立した団体です。「劇場」には、人の集う場という意味が込められています。

全国的劇団に依頼して、目の前で舞台を鑑賞することで子どもの感性を育てる例会活動と、会員が自分たちでイベントを企画・準備・実施することを通して、人と人とのつながりを深める自主活動を行っています。

Q 具体的な活動内容を教えてください。

例会活動では、多くの会員に興味を持って参加してもらえるような作品を選んでいきます。演劇のほか人形

劇やマジックショーなども鑑賞しています。より近くで作品を体感できるように、舞台と鑑賞する席を同じ高さにしています。時には、出演者が呼び掛けてくれたりして、舞台に参加しているような体験ができます。自主活動では、水鉄砲合戦やハロウィンパーティーなど、季節ごとにさまざまなイベントを行っています。

Q 子どもたちの反応はいかがですか。

また、活動以外にも子育ての悩みや幼稚園・学校のことを相談するなど、幅広い交流ができる場にもなっています。



劇団による舞台を鑑賞する例会活動

いたり、集中して口が空いていたり、楽しくて隣の子に話し掛けたりしているのを見ると、豊かな心が育っていると感じます。

Q 今後の抱負をお願いします。

私は「育ち合い」を活動のテーマにしています。さまざまな活動を通して、年齢や地域を越えて交流することで、共に育ち合せてきました。昭和六十三年の設立から、来年で三十周年を迎えます。これからも楽しいことを続けて、たくさん笑顔を生み出していきたいです。



子どもたちの発案で演劇を披露した自主活動

## 地名の中の「いわき」

### 「勿来市」の成立

「勿来」という地名は、勿来町が成立するまでは通称地名であり、大正十四(一九二五)年に窪田村が町制化し、勿来町となったことにより、初めて正式地名として誕生しました。

古文書では、皆さんがご存じの「勿来

地名には、地域の歴史を知るヒントが隠されています。市内各所の地名にまつわる由来などを紹介し「いわき」の歴史をひもときます。

「関」は記載が確認できず、この地に存在した関の名称として「菊多関」が出てきますが、現在に至るまで場所は特定されていません。現在の勿来関の名称と場所は、磐城平藩主だった内藤公が、藩の飛び地であり、海岸を見下ろすことができ、風光明媚な地だったことから、江戸時代に定めたものです。

正式地名となった勿来町は、昭和の大合併で、植田町、錦町などと合併を目指しますが、三町とも同じような人口規模だったことから、市名だけでなく新市庁舎の場所も決まらず、合併が危ぶまれました。

このため県が調整を図り、最終的に市名は「勿来町」の勿来、当面の市庁舎は旧「植田町」庁舎、将来の市庁舎はできる限り植田町に近い「錦町」地内という条件で各町村が合意して合併し、勿来市が成立しました。

(いわき地域学會 小宅幸一)

※いわき市内の昔の写真をお持ちで、提供いただける方は、ふるさと発信課(☎22・7503)までご連絡ください。

### 平成29年度交通安全功労者表彰

▷平田勝俱さん(76)＝勿来町

同表彰は、交通安全の確保や思想の普及に貢献し、功績を上げた方に授与されるもので、長年にわたり交通安全教育専門員として、子どもたちの登校時の立哨活動や交通安全指導を行うなど、交通事故防止に多大な貢献をしたことが評価されました。

### 10/22(日) 内郷図書館を臨時休館

総合図書館 ☎22-5552

内郷支所の冷暖房設備設置工事に伴い、同館を臨時休館します。不便をお掛けしますが、理解と協力をお願いします。

### 募集 いわき野菜の魅力発信「6秒CMチャレンジ」の企画

農業振興課農業企画係 ☎22-7471  
nogyoshinko@city.iwaki.fukushima.jp

風評払拭と消費拡大のため、いわき野菜の魅力をも6秒間で伝えるCMの企画を、4コマ絵コンテの形で募集します。

- ▶応募数 1人3企画まで
- ▶応募方法 同課に備え付けの応募用紙に必要事項を記入し、〒970-8686 農業振興課へ(直接持参・可)
- ▶募集期間 10月13日(金)～11月22日(水)必着
- ※応募用紙は市ホームページからも入手可。



勿来市合併祝賀記念祭(植田町本町通り) [昭和30(1955)年10月 長谷川達雄氏撮影]